

## 学校再開にあたって体育で何を大切にすべきか

### －体育の授業づくりに対する提言－

学校体育研究同志会全国常任委員会

#### ◇はじめに

新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の流行にともなって発出された緊急事態宣言も解除され、学校も再開の方向に向かうことになりそうです。学校が再開されるにあたって、多くの教職員の方々は不安と喜びの両方の思いを抱いていることと思います。

これから私たち教師は、主体性と専門的な力量を発揮することが大切になります。そこで、私たち学校体育研究同志会は、これまでの実践研究の中から考えられる授業づくりの方向をみなさんに提言していきたいと思えます。

#### ◇子どもたちから出発した教育課程の編成を

##### ①体育・保健体育の価値を共有する

「体育」「保健」を通して考えられるのは、運動技術や戦術の学び、心身の解放、からだづくり、楽しさ、仲間づくり、文化としてのスポーツの学びなどです。私たちは、「ともにもうまくなる」「ともに楽しみ競い合う」「ともに意味を問い直す」の3つの「ともに」を大切にしてきました。

また、運動会や体育祭を中心とする体育的行事は、教科の学習を生かした学習の場であると同時に、自治を学ぶという大きな意味を持っています。改めて教科や行事のあり方を確認し合って、再開に向かいましょう。

##### ②子どもから出発する。子どもの必要は何かを考える。

これまでの遅れを取り戻すという発想では、子どもたちを追い込むことになりかねません。そのため、教職員の経験を総合して、子どもたちに本当に必要だと思われる内容を絞り込んでじっくりと取り組むことが大切です。それと同時に、子どもが何を欲しているのかもまた重要になります。私たちの知るところでは、水泳をやらないと決めた学校がありました。それは、子どもの必要に根ざした判断でしょうか。子どもたちと工夫しながら水泳に取り組む方がよいのではないのでしょうか。こうした主体的な判断が求められると思えます。なお、この間、全く運動をしていなかった子どもがいることがいることも予想されます。子どもの実態を把握するとともに、いきなり高強度の運動をせずに、からだを慣らしていくことが大切になります。

##### ③安全への配慮と子どもの参画

みんなで運動を行うときに、安全への配慮は必要です。その際に、子どもたちを安全確保の主体にする観点を持ち、3密を避けて体育を行う工夫を子どもたちと一緒に考えることが大切でしょう。3密に配慮しすぎても、活動が制限されることになります。体育の再開は、現場が主体性をもって判断することでもあります。このとき、保健室や病院などの医療機関との関係を構築しておくこと、プライバシーの保護の確約が必要になります。学校の判

断や要望を行政へ届けていくことが必要になるでしょう。

#### ④「わかって」「できる」、ともに学ぶ楽しさを大事にしよう

運動を指導するときに考えなくてはならないのは、「何がわかればできるようになるのか」、「子どもは何につまずいているのか」、「そのつまずきをどんなスモールステップで克服するのか」などです。そういった研究成果は私たちも蓄積しています（書籍や研究会などの案内はホームページを参照してください）。しかし、そういった教材を探してきても、友だちと一緒に学ぶという視点を導入したいものです。子どもは黙々と1人で課題をこなすよりも、友だちと「ともに」学び合うことに楽しさを見いだしています。そして、「主体的・対話的で深い学び」を成り立たせるためにも、子どもたちの考えを言葉に出させて探求することが大切になります。

体育がからだを動かすことを中心とするといっても、スポーツを内容に持つわけであり、スポーツの理論的な視点を取り入れた授業を構想することが可能になります。スポーツを実技習得に特化せず、歴史や文化性などもこれを機に学ばせていくこともできます。

#### ⑤「からだ」を学び、自身の成長を促すこと

体力の低下を理由に、安易な体力づくりメニューの消化や、トレーニングを中心とした教師主導による一方通行的な体育に傾くのではなく、硬直したからだをほぐしながら自分のからだと向き合うこと、からだの成長や体力と運動の関係を科学的に学ぶこと、さらにはからだと休養・睡眠・栄養との関係を教えることも有効です。

また、小学校では「病気の予防」（5、6年次）の学習が、中学校では「感染症の予防」（3年次）の学習が組み込まれていますが、「コロナを学ぶ」「コロナで学ぶ」視点から、「免疫」を中心とした「からだを守る仕組み」の授業や、新しい社会のあり方を考える授業も可能です。

いずれにしても、しつけとして一方的に子どもたちに教え込むのではなく、常に社会や生活とのつながりを念頭に体やコロナをとらえることが必要です。

#### ◇おわりに

アフターコロナの時代は、体育の学びにも新しいスタイルをもたらすかもしれません。体育はみんなが集ってからだを動かして、何かをつくっていく、上手くなっていくことが中心であることは間違いありません。でも、もしかしたらオンラインでつながる体育、つまり、空間を飛び越えた体育も可能になるかもしれません。新しい試みや挑戦が始まるかもしれません。私たちはコロナをチャンスとして、みなさんと一緒に、新たな「体育」・スポーツの学びの可能性を追求したいと思います。